

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500131		
法人名	特定非営利法人コスモス		
事業所名	グループホーム コスモスガーデン		
所在地	太田市西野谷町95-1		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールの天井は、開放感と採光を取れるよう高くとり、床暖房も設備し、居心地よい空間となっている。庭には、パリアフリーで自由に行き来でき、四季折々の花が咲き、スタッフと一緒に水やりや手入れをして楽しむことができる。施設職員は、理念に基づき、個人個人の尊厳を尊重できるよう、常にお客様の立場に立った考えのもと、支援するよう努めている。コロナ前は、保育園の子供たちや小学生が慰問に訪れ、互いに交流を持ち、地域に開けた施設となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地には、小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護支援事業所、グループホーム2事業所があり、地域に根ざした事業所である。コロナウイルス感染予防のため、これまで行っていた利用者が楽しみにしている保育園児の訪問や、小学生の訪問・交流会は中止となってしまったが、人と人がふれあひ会話し喜び合える誕生日会や、天気の良い日の庭でのお茶会、事業所周辺の散歩など、コロナ禍のなか事業所内でできる取り組みに努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、設立当初、職員と意見を出し合っ て作り上げた。 毎朝、職員全員で理念を唱和し、介護に役 立っているかを確認している。	理念の「利用者の尊厳を尊重し」について、 職員の共通理解に向け、支援の動作や声か けが利用者に対する尊厳をもって行われて いるか、振り返りの時間を設け状況を発表 し、実践の内容を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	コロナ前は、クリーン作戦等、施設のもの が地域活動に参加している。 地域の夏祭り等に参加し、地域の保育園と の交流、小学生の授業の一環としての交流 がある。	地域行事の参加、保育園児や学童の訪問・ 交流会は、コロナウィルス感染予防のため中 止している。天気の状態をみて事業所周辺 を散歩し、出会う地域の方々と挨拶をしてい る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	コロナ前は、毎年、近くの小学生が総合学 習のために来訪していて、ケアマネジャー から、生徒や先生に認知症の症状や支援 に大切な事について説明している。 そして、実際に交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	コロナ前は、運営推進会議は2か月に1回、 区長・民生委員・市担当者・家族代表・利用 者代表・施設代表の出席で開催されてい る。 その都度意見交換を行い、サービスの向上 に努めている。	令和2年1月以降の運営推進会議は、中止 している。近況報告と行事予定の他、地域行 事の新年会出席数の報告、地域からの出席 者や家族の声としての発言時間が設けられ ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から、市役所とは気軽に相談し合える 関係となっており、利用者や制度のことな ど、その都度相談しながらサービスに取り 組んでいる。	市担当課へ、コロナ禍における面会時期や、 運営推進会議の開催について等の相談を、 案件により電話か出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて定期的に学 習会を行っている。 身体拘束に対する指針を作成して、学習会 等でスタッフ一同が理解を深められるように 努めている。	3ヶ月に1回、「拘束について」の学習会を 実施し、1年に1回は事例を用いて、具体的に 禁止している言葉や度を越した抑制等の話 し合いを行い、理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	学習会を通じて、高齢者の虐待について学 び、知識を深め、虐待を見過ごされること のないように注意している。 また、利用者の尊厳を尊重できるように 日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、定期的に学習会で学ぶ機会を設け、今は活用している人はいないが、必要性があるときには、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定の際は丁寧に時間をかけて説明するように努めている。また、不安な点や質問は、必ず尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時には、近況報告をおこない、利用者や家族が、気軽に意見等を言える雰囲気づくりを心掛けている。また、ケアプランの説明時などでも、何か困っている事や希望等を聞くように努めている。	「おたより」を作成し、家族へ毎月発送しており、意見を言える関係づくりに努めている。また、家族の来所時に意見を聞くことや、運営推進会議では、家族の出席者に家族の声として意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話のほか、毎月実施している学習会で職員から意見や提案を聞いている。職員の意見から、移動リフトや入浴リフトを導入し、職員の働きやすい職場環境作りを努めている。	管理者にいつでも相談でき、職員で話し合い対応している。利用者からの居室にあるエアコンの電源(赤色)が気になる訴えに対する対応、危険を予測して台所にある包丁の保管場所の変更等が、行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の勤務実績状況を把握し、努力を認め、給与水準などに反映している。また、状況に合わせ、個々の働きやすい職場環境の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を、就業内に持てるよう勤務調整している。また、研修で学んできたことを、学習会で伝達講習し、職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する機会を作り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設を見学して頂き、環境や雰囲気を確認して頂いている。 本人の困っていることや不安なことに耳を傾け、安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、より良い関係で本人をサポートできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前段階で、本人と家族にとって、どのようなサービスが必要かを話し合い、他のサービスが適切の場合は、きちんと説明し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方的な立場におかず、出来ることは一緒に行い、人生の先輩として、いろいろなことを教えて頂きながら、寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ前は、面会時に日々の様子を伝え、情報の共有を心掛け、互いに話し合い、どのようなケアをしていくことが良いのか話し合い、一緒に解決をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は、古い友人や、近所に住む親戚の方が訪ねてきたり、家族が面会に来た際には、ラウンジや居室でゆっくりすごせるように配慮している。 また、友人や家族に電話をかけた、柔軟な支援を行っている。	コロナ禍のなか、ガラス越しによる面会が行われている。また、利用者の友人が、野菜などを届けてくれる関わりがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルが起きないようにホールの席など工夫している。 また、一人一人が孤立しないよう、職員が間に入り、利用者同士の関わり合いが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談があれば、いつでものることを伝え、お手伝いをしている。 契約終了後も、家族が尋ねて来ることが多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通じて、会話の中から、利用者に希望を聞いている。 本人からの把握が困難の場合には、家族から生活の様子・趣味・得意・不得意・希望等を聞き取り、本人本位のケアに努めている。	多くの利用者は、自分の思いや意向を職員に伝えることができるため、洋服が欲しい・リハビリを受けたいなどの思いを聞き取り、理学療法士のプログラムで訓練するなど本人の要望の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで、今までの生活歴やサービス利用の経過を把握している。 入所後も、家族や友人等からの新しい情報があった場合は、スタッフ間で情報の共有が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に合った一日の過ごし方を考え支援している。 また、心身の状態や有する能力を常に観察し、職員同士が学習会等を通じ、情報を共有し支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについて、本人・家族・ケアマネジャーで話し合い、職員の意見などを聞き、介護計画を作成している。 介護計画の各種目に沿って職員が記録している。	介護計画の支援・援助のモニタリングは、毎月1回実施している。また、利用者の状態の変化に応じその都度、気づいた時に、管理者(介護支援専門員)、職員によりケアの見直しをしている。記録・課題ニーズにおける記述が、曖昧で評価しにくい。	記録は、介護・看護職員が理解しやすい語句を選び記述することで、評価につながりやすいものとなることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の様子・ケアの実施・結果・変化等を記録している。 また、職員会議でも話し合い、情報を共有しケアしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズを聞き取り、職員会議等で話し合い、できる限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、地元のボランティアに慰問に来てもらっている。 また、地域の学童クラブの子供達や、保育園児の慰問もあり、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先として、かかりつけ医を選択している。受診結果については、家族と連絡しあい情報を共有している。また、協力医が月1回往診し、必要に応じて専門病院を紹介するなどしている。	入居時、本人・家族にかかりつけ医の受診継続の希望を聞き、利用者が選んだ医療機関への受診が行われている。他科受診の場合は、家族の承諾を得て職員が受診支援をしているが、受診先で家族と合流し、利用者の状況・情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも看護師に連絡がとれる体制がとれている。週に1回訪問介護にきてもらい、その際、しっかりコミュニケーションを図り、相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と経過を話合っている。早期に退院ができるよう様、病院側・家族と連絡を取りながら、情報交換出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、文書を作成し、契約時に説明を行い、用紙に記入してもらっている。利用後に、随時、今後の変化に備え、かかりつけ医・家族を交えて相談をしながら検討し、今後の方針を決めている。	看取りに関する指針を作成し、契約時に本人・家族に説明して、終末期ケアに対する本人・家族の考え方・要望等を事前に確認している。変化があれば、医師や訪問看護師に相談しやすく連携がとれている。職員へ向けた看取りについての学習会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時の応急手当について、月1回の学習会で確認し、AEDについても勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署指導のもと、夜間想定も取り入れた、初期消火・通報・誘導・避難を内容とする消防訓練を実施している。 夜間想定では、職員の到達時間を計ったり、消化訓練をおこなうなど、実践的訓練を行っている。	コロナ禍のため、地域の人々の参加はないが、年2回の避難訓練をしている。夜間の1人夜勤の場合を想定して、職員の事業所到達時間を測るなど、現実的な訓練をしている。食料・水等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、言葉使いに注意し、日々のケアを行っている。 職員同士が互いに向上できるように、お互いに気づいた事を話し合ったり、指摘しあえるようにしている。	利用者に対する言葉づかいは丁寧語をつかい、名前はさん付けで呼んでいる。言葉の乱れに気づいた場合は、その都度職員同士で話し合ったり、指導したりしている。また、トイレ・浴室の出入りにもプライバシーを損ねないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、希望や思いやりをくみ取り、自己決定に繋がれるように努めている。 自分で意思決定できない利用者に対しては、表情や生活歴から、思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その人らしい生活を送れるように支援している。 状態や想いに配慮しながら、好みの食事や趣味の支援等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるよう、脱衣場に化粧水やヘアークリームなどを用意し、自由に使用できるようにしている。 また、訪問理美容も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、出来る限り満足できる献立作りを心がけている。 また、利用者の状態に合わせて、刻み食やトロミのものを提供している。	利用者全員が、自分で食事をとり、食事の準備では、野菜の皮むきやお盆拭き・テーブル拭き等を、行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じ、主治医・本人・家族と相談しながら、食事量・形態・水分量を決めている。 水分量は必要に応じチェックしている。 必要に応じて補助食品もとりにいれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より、個々のケア方法を指導してもらい支援している。 義歯の利用者は、毎晩ポリドントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、排泄の支援や声掛けを行っている。 オムツ利用の利用者も、排泄されている時間や尿量などを考え、その方にあった時間にオムツ交換をしている。	利用者個々の排泄記録と行動を見て、早めに声かけをしてトイレに誘導している。また、おむつ交換は、その人の習慣やパターンをもとに、利用者に適した時間で行い、気持ちよく過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分を補給したり、毎日体操している。 必要に応じて、医師の処方による薬を内服している。 また、その日ごとの状態に合った下剤の量を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者にとって楽しみの一つだということを理解し、入浴時間を楽しんでもらえるよう、入浴剤を使用しながら支援している。 職員と談笑したり、歌を歌いながら、楽しい時間を過ごせるように支援している。	週3回を目安に、入浴前の健康チェックをして、利用者1人に介助者1人の入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、利用者の話を傾聴し無理強いないようにしている。時期に応じたゆず湯やしょうぶ湯、市販の入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や生活のリズムに合わせて休む時間を決めている。 夜間気持ちよく眠れるように、日中の活動量を増やし、また不安な時は寄り添い安心を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が内服薬を理解し、薬の内容が現状とあっているかどうかを、その都度主治医と相談し、過剰な服薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなこと、得意なこと、嗜好品の好みをよく把握し、一人一人に合ったケアができるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ前は、天気の良い日は散歩などに出かけ、家族との外食もされている。 施設では、地域の催し物に出かけ、地域の方と交流している。 また、花見の季節には、花菖蒲や菊花展の見学など外出支援をしている。	コロナ禍、事業所周辺の散歩、広い庭にテーブルと椅子を置いてお茶を楽しむなど、外気にあたる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を管理している利用者はいないが、希望に応じて、家族と相談のうえ本人が管理することも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や知人に電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館バリアフリーでホールやトイレ等は広く、庭には野菜や草花が植えられ、収穫を共に楽しむことができる。 室内の温度も夏冬とも一定に保たれている。 利用者が季節を解りやすいように、掲示板などに月ごとの飾り付けを行っている。	広々とした玄関を入ると、クリスマスツリーが飾られ季節を感じることができる。ホールも広く、自然光と照明で明るく暖かい空間となっており、エアコンディショナーによって、1年中温度・湿度が一定に保たれるよう調整が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し、それぞれが良い関係を構築できるよう配慮している。 また、ホールにはソファもあり、気の合った利用者同士が楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットが準備してある。それ以外のものは家族と相談しながら、今まで使っていた物を持ってきてもらい、自宅にいた時の空間作りになるように支援している。	居室には、備え付けのベッドが置かれている。その他のテレビ、椅子、ミニタンス等は、自由に持ち込まれている。はさみ等の危険物や酒類は禁止しているが、酒類については事業所で預り、食事の時にたのしむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はもちろん、庭もすべてバリアフリーとなっていて、散歩が自由にできる。 一人一人の能力に応じたケアをすることで、その有する能力を、最大限活かす事ができる。		